

音楽史における「印象主義」

- ・モネなどの絵画やマラルメの象徴詩に影響を受けた、1890年頃～1910年代のフランスを中心とする音楽の傾向
- ・光、波、風、匂い、音など、直ちに消失したり変化したりする瞬間的な事象、雰囲気、事物の（幻想的）イメージを音楽的理念として描く
- ・代表的な作曲家はクロード・ドビュッシー（1862-1918）、モーリス・ラヴェル（1875-1937）
- ・音楽の様式に「印象主義」の用語が初めて適用されたのは1887年、ドビュッシーの交響組曲《春》（2つの楽章から成る管弦楽曲）の初稿に対して

印象主義的音楽の特徴

- ・流動的で多様なリズム、拍節構造の自由化、変幻自在なテンポ
- ・非連続的で断片的な旋律、絵画的・感覚的・夢想的・幻想的音世界の創造
- ・平行進行、半音階和声などの多用による従来の和声機能の放棄
- ・教会旋法、五音音階、全音音階などの使用による調組織からの離脱
- ・暗示的題名の付与
- ・ピアニッシモ（*pp*）の重視